

第三回 貴族院議事速記録第十七號

明治二十五年六月二日(木曜日)

午前十時四十一分開議

議事日程 第十七號 明治二十五年六月二日

午前十時開議

第一 郵便聯合國郵便切手類保護法案(提出)

第二 海上衝突豫防法案(提出)

第三 出版法案(衆議院提出)

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○議長(侯爵蜂須賀茂詔君)

昨日、政府提出、明治二十五年年度歳入歳出總豫算追加案並ニ二十五年度大阪砲兵工廠特別會計歳入歳出豫算追加案及豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スルノ件、政府提出、震災地方租稅特別處分法案ヲ衆議院ヨリ受領致シマシテゴザイマス、民法商法修正審査委員ヲ設クルノ建議案ガ小畑美稻君ヨリ發議サレマシテゴザイマス、昨日、議院ノ委託ニヨリマシテ本席ニ於テ選定致シマシタ砂鑛採取法案並ニ特別市制撤去法、市制追加法案特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス、書記官長ヲシテ朗讀致サセマス、

〔金子書記官朗讀〕

砂鑛採取法案特別委員

公爵近衛 篤磨君

男爵青 山 貞君

野崎 武吉郎君

特別市制撤去法案及市制追加法案特別委員

公爵德川 家達君

子爵堀田 正養君

男爵堀 取 素彦君

○議長(侯爵蜂須賀茂詔君)

昨日各部ニ於キマシテ選舉ニナリマシタル保安條例廢止案並ニ貴族院規則第六十四條第九十六條第六條改正ノ動議案特別委員ノ氏名……是レモ書記官長ヲシテ朗讀セシメマス、

〔金子書記官朗讀〕

保安條例廢止案特別委員

六十點 島内 武重君 五十八點 外山 正一君
五十六點 松岡 康毅君 五十三點 子爵板倉 勝達君
五十一點 子爵堀田 正養君 四十九點 武井 守正君
四十八點 子爵山内 豐誠君 四十七點 侯爵醍醐 忠順君
四十五點 角田 林兵衛君

貴族院規則第六十四條第九十六條第六條改正ノ動議案特別委員

五十八點 清浦 奎吾君 五十七點 子爵島尾 小彌太君
四十三點 三浦 安君 三十九點 子爵谷 干城君
三十九點 子爵岡部 長職君 三十四點 男爵千家 尊福君
三十四點 尾崎 三良君 三十二點 岡内 重俊君
三十二點 村田 保君

○議長(侯爵蜂須賀茂詔君)

次ニ本日ノ議事日程第一郵便聯合國郵便切手類保護法案政府提出第二讀會ヲ開キマス、逐條朗讀致サセマス

○子爵平松時厚君 此郵便聯合國切手類保護法ハ格別條數モゴザリマセズ又修正モ格別ニモアリマスタイト考ヘマスルカラ貴族院規則第七十三條ニ依リマシテ數條ヲ連テ討論セラレムコトヲ希望致シマス、ドウカ御賛成アラムコトヲ……

○議長(侯爵蜂須賀茂詔君)

唯今朗讀致サセマス、

〔木内書記官朗讀〕

第一條 郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手、封皮、葉書又ハ帶紙ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

〔木内書記官「拾」ノ字ガ改テ居リマスト述フ〕

○男爵伊達宗敦君 平松子爵ノ動議ニ賛成、

○男爵西五辻文伸君 平松子爵ノ動議ニ賛成、

○子爵河崎實文君 平松君ノ說ヲ贊成致シマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂詔君) 平松子爵ノ御說ハ本院規則ノ七十三條ニ依ッテ數條ヲ連テ問題トスル……チヨット平松子爵ニモ一應確メテ置キマスガ、此動議ハ總テ第五條マデ總テテ連テ云フ御說デゴザイマスカ、

○子爵平松時厚君 左様デゴザイマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂詔君) 依ッテ總體ヲ連テテ問題トスルト云フ動議デアリマス、是レハ贊成者モゴザリマスニ依ッテ議院ニ諮ヒマシテ決シマスル積リ、平松子爵ノ動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵峰須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、依ッテ第二條以下モ朗讀致サセマス、

〔木内書記官朗讀〕

第二條 已ニ貼用シタル郵便聯合條約國政府發行ノ郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

〔木内書記官「貳」ノ字及「拾」ノ字ガ改ッテ居リマスト述フ〕

第三條 第一條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第四條 第一條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス

第五條 此法律ハ明治二十五年七月一日ヨリ施行ス

〔木内書記官「附則」ト云フ字ガ第五條ノ前ニ入ッテ居リマスト述フ〕

○村田保君 第四條ニ「第一條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ云々」トゴザリマスルガ、是レハ刑法第二百一條ニ斯ノ如ク掲ゲテゴザイマスルヨリ之ヲ其儘ニ轉載シタルモノト存ジマス、然ルニ刑法ニ於キマシテハ重罪ノ刑ト輕罪ノ刑ト雜ッテ居リマスルトキニハ輕罪ニ處スルト云フコトハ必要デゴザリマスルガ第一條ハ輕罪ノ刑バカリデゴザイマス、此輕罪ノ刑ニ處スルト申シマスル文字ハ贅文ニアリマスルシ人ノ惑ニナラウカト思ヒマス、一體刑法デ前數條ニ記載シタル罪ヲ犯ストキハ云々ト云フトキハ輕罪ト重罪ト雜ッテ居リマスルトキニ申シマスル言葉デ重罪バカリノトキデゴザイマスレバ前數條ノ罪ヲ犯シ減輕刑ニ依ッテ輕罪ノ刑ニ處スルト云フコトガゴザリマス、又前數條ガ輕罪バカリデゴザイマスレバ前數條ノ罪ヲ犯シタルトキハトチヤント極ッテ居リマス、依ッテ第一讀會ニ於キマシテ政府委員ニ此事ヲ質問シマシタルバ是レハ起草者ノ誤ト云フコトデアリマシタガ誤ト云フコトデアリマスレバ速ニ改ムルガ當然ト思ヒマスルカラ「輕罪ノ刑ニ處ス」トアル七字ヲ削ッテ「第一條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ」ト改メタウゴザイマス、サウ致シマスルト刑法ノ定規ニモ合ヒマスルシ若シ左モゴザイマセヌト刑法ノ定規ニ合ハンデハ宜シクナイト思ヒマスカラ左様修正ニナラムコトヲ望ミマス、是レハ定規ノ贊成モゴザイマセヌカラ滿場ノ御贊成ヲ希望致シマス、

○瀧口吉良君 贊成、
○子爵松平信正君 贊成、
○櫻井伊兵衛君 贊成、
○渡邊治右衛門君 贊成、
○子爵曾我祐準君 贊成、
○子爵小笠原壽長君 贊成、

○子爵内藤政共君 贊成、

○子爵山内豐誠君 贊成、

○子爵土方雄志君 贊成、

○子爵谷千城君 贊成、

○箕作麟祥君 贊成、

○伯爵中川久成君 贊成、

○侯爵醍醐忠順君 贊成、

○野崎武吉郎君 贊成、

○山川浩君 村田君ニチヨット質問ガアリマスガ第四條ヲ「第一條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス」ト斯ウナリマスカ、

○村田保君 左様、

○山川浩君 刑ニ處セラレヌデモサウナリマスカ、

○村田保君 夫レハ刑法ノ文例デ第三百九十四條ニモ「前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス」トアリマスルシ四百條ニモ「前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ云々」斯ウ云フ文例ニナッテ居ルノデゴザイマス、

○男爵鶴殿忠善君 村田君ノ贊成ハ足リマスカ、

○議長(侯爵峰須賀茂韶君) 定規ノ贊成ハゴザイマセヌ、

○男爵鶴殿忠善君 贊成致シマス、

○伯爵大原重朝君 贊成、

○子爵板倉勝達君 贊成、

○男爵小松行正君 贊成ヲ致シマス、

○森岡昌純君 村田君ノ說ニ贊成致シマス、

○林宗右衛門君 村田君ニ贊成、

〔清浦奎吾君演壇ニ登ル〕

○清浦奎吾君 第四條ニ付テノ村田君ノ御意見ハ一讀會ノトキニ質問モ出マシテ政府委員ヨリ答辯モアリマシタカラ定メテ御修正ノ說ハ今日出マイト私ハ思フテ居リマシタガ相變ラズ村田君ヨリ修正說ヲ提出セラレマシタ、私ハ此修正ニハ不同意デアアル、一體是レ等ノコトハドチニシテモ格別差支ハナイ様デアリマスケレドモ此修正ハ彼レ、此レヨリ善シトマデハ行キマセヌノミナラズ寧ロ彼レ、此レヨリ惡シ、ト私ハ認メル、

○子爵土方雄志君 チヨット伺ヒタイ、村田君ノ說ハ議場ノ問題ニナッテ居リマスカ居リマセヌカ伺ヒタイ、

○議長(侯爵峰須賀茂韶君) 定規ノ贊成ガゴザイマシタ、

○清浦奎吾君 ソコデ修正ヲスルト云フコトハ成ルベク善イ方ニ修正ヲシ

ナケレバナラヌ、ドチラデモ宜イ位ナラバ寧ロ手ヲ著ケヌデ宜イ、スル位ナラバ善イ方ニ修正シナケレバナラヌ、修正シテ彼レ、此レヨリ惡シトスルノハ甚タ不同意デアル、其不同意ノ所ヲ一應述べマスガ「第一條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ」ト、罪ヲ犯シタルノミデハ不論罪ニナルコトモアルノデゴザイマス、罪ハ犯シタルモ其罪ハ論ゼストナルコトガアリマス、夫レデモ矢張り本罪ノ方ハ論ゼヌデモ附加刑ノ監視ハ附スル様ニ村田君ノ修正デハ見エルノ嫌ガアリマス、政府委員ノ先達テ述べマシタル様ニ違罪ニ陥ル場合ガアラウト私ハ思フ、何トナレバ宥恕減輕ト云フモノデ一等ヲ減輕シ、自首減輕ト云フモノデ一等ヲ減ズル、酌量減輕デ二等ヲ減ズル場合ガアル、宥恕減輕ト自首減輕ト酌量減輕デ四等減ニナル、或場合ニ於テハ五等減マデ行クコトガ刑法ニ定メラレタル位デアル、ソコデ六箇月カラ此減輕ハ四分ノ一分ヲ減スルヲ以テ一

等トシテアル、即チ六箇月ノ四分ノ一ヲ四等減ニナッタラバ如何デアリマセウカ、即チ違罪ニ下ルト云フ場合モ場合ニ依ッテアルノデゴザイマス、ソコデ「輕罪ノ刑ニ處スル者ハ」ト斯ウ書キマシタル所ガ何モサウ矛盾スルナドト云フ様ナコトハ決シテアリモシマイシ……成程刑法ノ一體ノ文例カラ書分ケ細カニ詮議シテ論ジマスレバ村田君ナドハ刑法ノ審査委員デアリマシテ能クサウ云フ細カナ處マデモ御氣モ付カレルノデアリマスガ、斯ウ書イテ置イタカラトテ決シテ不都合ハナイ、既ニ此事ハ郵便條例二百四十九條ニ第何條何條ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付スト明文ガアルノデ其明文通り此處ニ移シタモノト思フ、夫レハ村田君ハ郵便條例ハ自身ハ其會議ニハ與ッテ居ラス、自身ハ與ッテ居ラスカラ夫レガ間違ッテ居ルト云フ御考カモ知レマセヌガ、既ニ郵便條例二百四十九條ノ文例モアリマスカラ今之ヲ必ズ改メテ「第一條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ」ト修正スルノ必要ハ私ハナイト認メマスル、ノミナラズ修正シテ却ッテ善クスル方デナクシテ惡シキニ導ク方デハナカラウカト思ヒマス、デ此郵便聯合國郵便切手類保護法ノ如キハ誠ニ私共ハ能ク出來テ居ルト見認メマスル、先ツ修正委員ノ此三拾圓ノ拾ノ字……畫ノ多イ拾ノ字ヲ畫ノ少ナイ十ノ字ニ修正シタ位デ宜シイト思ヒマス、別段是レ等ノモノニ向ッテ左程喋々スル必要ハナイ様ニ思ヒマス、先ヅ私ハ此原案ノ通りニ通過スルコトヲ望ミマスタメニ村田君ノ御説ニ已ムヲ得ズチヨット一言ヲ呈シテ置キマス、

○村田保君 チヨット清浦君ニ質問ヲ致シマス、清浦君ハ輕罪ノ刑カラ減輕等スレバ違罪ノ刑ニナルト云フコトデスガ違罪ニハ監視ガゴザリマスガ成程違罪ニ監視ガアルト云フナラバ御説ガ立ッダラウト思ヒマスガ違罪ニハ監視ハゴザリマセヌ、ドウゾモウ少シ刑法ヲ能ク御覽ヲ願ヒタイ、刑法ノ第三百九十九條ヲ御覽ニナルト夫レハ分リマセウ、三百九十九條ニハ「強

竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」ト云フコトガゴザリマス、夫レデ第四百條ニハ何トゴザリマスガ「前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス」ト斯ウゴザリマス、サウアッテ見マスレバ清浦君ノ御説ノ通りニスルト是レモ矢張り輕罪ノ刑ヲ加ヘナケレバナリマセヌ、ドウモ御説ガ能ク分リマセヌカラドウゾ刑法ヲモウチット能ク御覽下スッテ御辯明ヲ願ヒマス、

○清浦奎吾君 辯明ヲ致シマス、勿論監視刑ハ御承知ノ通り重罪ノ刑ニ附スル監視ト云フモノハモウ別段宣告セシメデモ當然監視ヲ附加スルコトニナツテ居リマス、夫レカラ輕罪ノ如キハ刑法ニ於テ特ニ定メマシテ、且ツ輕罪ニハ監視ヲ附加スルト云フコトヲ宣告スルコトニナツテ居リマス、違罪ハ勿論監視ヲ附加スルト云フコトハナイノデゴザリマス、夫レデ村田君ハ私共ヨリモ刑法ノ調査ヲ致サレタコトデゴザリマスカラ能ク御承知デゴザリマセウガ、併シ村田君ノ御修正ノ様ニ修正スルト矢張り却ッテ疑ヲ惹キ起シマス、違罪ニ就テハドウカ斯ウ云フ様ナ疑ヲ惹キ起スコトノナイコトヲ望ミマス、且ツ罪ヲ犯シタルバカリデアリマス丁度山川君ノ云ハレタ如ク罪ヲ犯シタクレドモ不論罪デ以テ罪ヲ論ゼラレヌコトモアル、夫レデ罪ヲ犯シテ論ゼラレデモ監視ダケニ付スル位デアラウト云フ氣遣ヒカラ申スノデアリマス、併シ何モサウマデ争ッテ是非村田君ノ御説ヲ壞ハサウノ何ノト云フ考ハナイノデアリマス、是レ等ノコトニ就テハ成ルベク修正ヲ持出サズニ通過サセタイト云フ冀望カラシテ述べマシタルノデ何モ村田君ノ説ヲ駁撃スル積リデハゴザリマセヌ、

○政府委員(河津祐之君) チヨット此處カラ申上ゲマス、唯今チヨット私が述べヤウト存ツテ居ルコトヲ清浦君ガ云ハレマシタガ、私モ清浦君ト同様デ輕罪ノ刑ニ處スルト云フ字ガアリマシテモ村田君ノ御修正ノ通りニナリマシテモドチラデモ宜インデゴザリマス、宜インデゴザリマスガ先達テ第一讀會ノ時ニ起草者ガ誤ッタヤモ知レヌト云フコトヲ質問者ニ御答ヲ致シテ置キマシタガ唯今清浦君ガ云ハレル如ク郵便條例ノ二百四十九條ニハ「輕罪ノ刑ニ處スルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス」トアリマシテ又電信條例ノ如キモ其七十四條ニハ「第六十四條第六十九條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス」ト云フコトガアリマス、郵便條例ナリ電信條例ナリ何レモ重罪ニ加ヘテナイノデアリマス、併ナガラ二ツノ條例共ニ輕罪ノ刑ニ處スルモノトアリマス、夫レニ依ッテ此起草者ハ矢張り是レハ刑法ニ屬スルカ郵便條例ニ屬スルカドチラニ屬スルカハ知リマセヌケレドモ郵便條例ニ斯クアル故ニ輕罪ノ刑ニ處スルモノト致シマシタ譯デ

アツテ強テ無茶苦茶ニヤッタ次第デハナイノデゴザリマスカラ夫レ丈ケノコトヲ一應御斷リヲ致シテ置クノデアリマス、強テ修正通リニ反對スル次第デモナク原案ヲ維持スルスル次第デモゴザリマセヌ、何レニシテモ早ク議決ニナルコトヲ冀望致シマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂詔君) 本員ハ先刻村田君ノ御説ヲ賛成致スト申シマシタガ少シ是レハ熟慮ガ足りマセヌカラ其御賛成ハ取消シマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂詔君) 定規ノ賛成ガ唯今醍醐侯爵ノ取消ニ就テ足りマセヌ、

○子爵新莊直陳君 村田君ノ御説ヲ賛成致シマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂詔君) 是レハ數條ヲ連ヌルト云フコトニ相成ッテ居リマスノデゴザリマスガ唯今村田君カラ修正説ガ出マシタ以上ハ決テ採リマスルノニ、總體ノ決ヲ採ルコトガ出來ヌコトニナリマシタニ依ッテ第一條第二條第三條ト云フモノハ之ヲ連テテ問題ト致シマス、此決ヲ先キニ採リマシテ而シテ第四條ニ及ブコトニ致シマス、第一條、第二條、第三條共委員ノ修正ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數
○議長(侯爵蜂須賀茂詔君) 過半数デゴザリマス、第四條ハ村田君ヨリ修正ガ出テ居リマス、第四條ハ「第一條ニ記載シタル罪ヲ犯シタルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス」ト云フコトニナリマスル修正デゴザリマス、定規ノ賛成ニ充テテ居リマスルニ依ッテ決ヲ採リマス、就キマシテハ第四條村田君ノ説ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 少數
○議長(侯爵蜂須賀茂詔君) 少數デゴザリマス、第四條原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數
○議長(侯爵蜂須賀茂詔君) 過半数デゴザリマス……附則ト云フ字ガ第五條ノ前ニ委員ノ修正デ入ッテ居リマス、第五條ト併セテ決ヲ採リマス、委員ノ修正ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數
○議長(侯爵蜂須賀茂詔君) 過半数デゴザリマス、

○子爵平松時厚君 既ニモウ第二讀會ハ終リマシタ譯デアリマスカラ貴族院規則第七十五條ニ依リマシテ三讀會モ速ニ開カレムコトヲ希望致シマス、且ツ又第七十六條ニ依ッテ連帶シテ決ヲ採ラレムコトヲ希望致シマス、

○子爵河野實文君 平松君ノ説ニ賛成致シマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂詔君) 平松子爵ノ動議ハ本院規則第七十五條ニ依リ

マシテ、第三讀會ヲ同日ニ開クト云フ動議デゴザリマス、是レガ即チ可決セラレマスレハ議事日程ヲ變更致シマシテ直ニ三讀會ヲ開クト云フコトニナリマス、其決ヲ採リマス、平松子爵ノ動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂詔君) 過半数デゴザリマス、依ッテ議事日程ハ變更ニ相成リマシタ、直ニ三讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略致シマス……本案ノ決ヲ採リマス、即チ第二讀會ノ決議ガ議案トナッテ居ルノデゴザリマス、本案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂詔君) 過半数デゴザリマス、依ッテ本案ハ可決セラレマシテゴザリマス、次ニ海上衝突豫防法案ノ第二讀會ヲ開キマス、本案ハ數條ニ涉ッテ居リマスルニ依ッテ朗讀ヲ省キマス、且ツ便宜數條ヲ連テテ問題ト致サウト存ジマス、總則ト申ス所カラ第一條、第二條、第三條マデヲ問題ト致シマス、

〔左ノ法案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ此ニ載録ス以下皆同シ〕

(議案中直線ヲ施セルモノ左傍ハ朱筆シタル文字右傍ハ増加シタル文字又「」内ノ字ハ右傍ニ朱筆シタルモノナリ以下之ニ倣ヘ)

海上衝突豫防法

總則

本法ハ海洋ト海洋接觸ノ場所トヲ問ハス凡ソ航洋船ノ運航シ得ヘキ水上ニ於ケル船舶ニ適用ス
本法ニ於テハ「中」汽船ト雖モ帆ヲ以テ運轉シ汽力ヲ用ヒサルトキハ帆船ト看做シ汽力ヲ用フルトキハ帆ヲ用フルト用ヒサルトノ別ナク汽船ト看做スヘシ
本法中汽船トハ凡ソ機關ノ作用ニ因テ運轉スル船舶ヲ謂フ
本法中船舶航行中トハ碇泊若クハ繫留又ハ坐礁、膠沙ニアラサル場合ヲ謂フ

船 燈
本法中船燈ニ關シテ見得トハ晴天ノ暗夜ニ於テ認メ得ルヲ謂フ
第一條 船燈ニ關スル規定ハ天氣ノ如何ニ關セス日没ヨリ日出マテ必ス遵守スヘシ此時間中ハ本法ニ定メタル船燈ノ外之ニ紛レ易キ燈ヲ掲クヘカラス

第二條 汽船ハ航行中必ス左ノ燈ヲ掲クヘシ
一 前檣若クハ其前面ニ於テ又ハ前檣ヲ具ヘサルトキハ本船ノ前方ニ

於テ船體上二十尺ヨリ低カラサル所ニ若シ船幅二十尺ヲ超ユルト
キハ其船幅ヨリ低カラサル所ニ亮明ノ白燈一個ヲ掲クヘシ然レト
モ船體上四十尺以上ノ所ニ掲クルヲ要セス此燈ハ常ニ不同ナキ光
ヲ發シテ鐵盤ノ二十點間ヲ照スヘク製造シ其射光ヲ左右舷外ヘ十
點間ツ、即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二點迄及フヘキ樣裝置シ
且ツ少クモ五海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用フヘシ

二 右舷ニ綠燈ヲ掲クヘシ此燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鐵盤ノ十點
間ヲ照スヘク製造シ其射光ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二點迄及
フヘキ樣裝置シ且ツ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用フ
ヘシ

三 左舷ニ紅燈ヲ掲クヘシ此燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鐵盤ノ十點
間ヲ照スヘク製造シ其射光ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二點迄及
フヘキ樣裝置シ且ツ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用フ
ヘシ

四 本條「第二號」項「第三號」項ノ舷燈ニハ其燈ヨリ前ニ少クモ三
尺突出シタル隔板ヲ其燈ノ内側ニ裝置シ右舷ノ綠光ハ左舷ニアル
船ヨリ左舷ノ紅光ハ右舷ニアル船ヨリ見得サル樣ニ爲スヘシ

五 汽船航行中ハ本條「第一號」項「第二號」項ノ規定シタル白燈ノ外ニ同種ノ白
燈一箇ヲ増掲スルヲ得但シ此場合ニ於テハ其兩燈ヲ龍骨線上前後
ニ隔テ其前燈ヲ後燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ掲ケ其前後ノ距離ハ
上下ノ距離ヨリモ多キヲ要ス

第三條

汽船他船ヲ引キテ航行スルトキハ兩舷燈ヲ掲クルノ外ニ白燈二個
ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此白燈ハ第二條「第一號」項ノ白
燈ト同一ノ構造ニシテ且ツ同一ノ場所ニ掲クルヲ要ス然レトモ二艘以上
ヲ引キテ航行スルトキハ其引キタル船ノ船尾ト最後ニ引カル、船ノ船
尾トノ距離六尺以上ノ場合ニ於テハ右二個ノ白燈ヨリ上方若クハ下方
六尺ノ所ニ尙ホ同種ノ白燈一個ヲ増掲スヘシ

本條ノ引船ハ引カル、船舶ノ操舵目標トシテ烟突若クハ後橋ノ後面ヘ小
形ノ白燈一個ヲ掲クルヲ得但シ此白燈ハ本船正横ヨリ前面ニ見得サル樣
ニ爲スヲ要ス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 別段御發議モナイ樣デゴザリマス、第一條、第二條、第三條マデ委員ノ修正ヲ
可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、
起立者 多數
○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザリマス、第四條、第五條、第六

條、第七條、第八條マデノ問題ト致シマス、

第四條 事變ノ爲メ運轉自由ヲ得サル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條「第一
號」項「二規定シタル白燈ト同一ノ高サニ於テ最モ見得易キ所ニ(汽船ナ
レハ其白燈ノ代リニ)二個ノ紅燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ
此紅燈ハ周圍少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニ
アリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若クハ黑色ノ形象二個ヲ上下
ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ

海底電信線ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條「第
一號」項「二規定シタル白燈ノ位置ニ於テ(汽船ナレバ其白燈ノ代リニ)三
個ノ燈ヲ垂直「上下」ニ少クモ六尺ツ、ヲ隔テ連掲スヘシ但シ此燈三個ノ
内上下ノ二個ハ紅色中央ノ一個ハ白色ニシテ周圍少クモ二海里ノ距離ヨ
リ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺
以上ノ形象三個ヲ垂直「上下」ニ少クモ六尺ツ、ヲ隔テ連掲シ其上下ノ二
個ハ紅色球形ヲ用ヒ中央ノ一個ハ白色堅菱形ヲ用フヘシ

本條ノ船舶全ク運行セサルトキハ舷燈ヲ掲クヘカラス然レトモ運行スル
トキハ必ス之ヲ掲クヘシ

本條規定ノ燈及ヒ形象ハ運轉自由ヲ得シテ他船ノ航路ヲ避クル能ハサ
ルノ信號ト認ムヘシ

本條ノ信號ハ難船信號ト混同スヘカラス難船信號ハ第三十一條ニ於テ之
ヲ規定ス

第五條 航行中ノ帆船及ヒ他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ第二條「第二號
「項第三號」項ノ舷燈ノミヲ掲クヘシ決シテ同條「第一號」項ノ白燈ヲ
掲クヘカラス

第六條 小形船舶航行中天氣ノ模様ニヨリ綠紅ノ二舷燈ヲ掲ケ置キ難キトキ
ハ何時ニテモ使用シ得ヘキ樣點火シテ之ヲ手近カニ備ヘ置キ他船ノ我船
ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナ
ル時間ヲ見定メテ其舷燈ヲ他船ヨリ最モ見得易キ樣各舷ニ表示スヘシ但
シ此時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得ス且ツ成ルヘク各舷正横後ノ
二點ヨリ後方ヘ見得サル樣ニ爲スヲ要ス

此綠紅ノ各燈ノ間違ヒナク容易ニ取扱フ爲メ綠燈ハ綠色紅燈ハ紅色ニテ
外面ヲ塗り且ツ適當ノ隔板ヲ備ヘ置クヘシ

第七條 總積量四十噸未滿ノ汽船及ヒ櫓權若クハ帆ヲ以テ運轉スル二十噸
未滿ノ船舶航行中ハ必シモ第二條「第一號」項「第二號」項「第三號」項
ニ規定シタル燈ヲ掲クルヲ要セス然レトモ若シ之ヲ掲ケサルトキハ必ス
左ノ規定ニ據ルヘシ

一 四十噸未満ノ汽船

甲 船ノ前部又ハ烟突若クハ其前面ニ於テ舷線上九尺ヨリ低カラス

且ツ最モ見得易キ所ニ第二條「第一號」項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一個ヲ掲クヘシ

乙 第二條「第二號」項「第三號」項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ緑紅ノ二舷燈ヲ掲クルカ又ハ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二點迄右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及スヘク製造シタル兩色燈一個ヲ掲クヘシ但シ此燈ハ白燈ヨリ少クモ三尺下方ニ掲クルヲ要ス

二 汽艇ハ本條「第一號」項「甲」ノ白燈ヲ舷線上九尺ノ所ヨリ下方ニ掲クルヲ得然レトモ其白燈ハ乙ノ兩色燈ヨリ高キヲ要ス

三 櫓櫓若クハ帆ヲ以テ運轉スル二十噸未満ノ船ハ一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用ヒタル燈籠一個ヲ手近カニ備ヘ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示スヘシ但シ此時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様ニ爲スヲ要ス

本條ノ諸船ハ第四條「第一項」及「第十一條末項」ニ規定シタル「ノ」燈ヲ掲クルニ及ハス

第八條 水先船其水先區ニ於テ營業ヲ爲ストキハ他船ニ要スル燈ヲ掲クヘカラス單ニ周回ヨリ見得ヘキ白燈一個ヲ檣頭ニ掲ケ且ツ十五分時ヲ超エサル間隙ヲ以テ閃火一個又ハ數個ヲ發スヘシ

水先船ニハ右ノ外縁紅ノ二舷燈ヲ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ我船ノ進行スル方向ヲ示ス爲メ一時之ヲ表示スヘシ但シ此時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様ニ爲スヲ要ス

水先人ヲ要スル船舶ハ「直」付ケスヘキ水先船ハ白燈ヲ檣頭ニ掲クル代リニ隨時之ヲ表示シ又舷燈ヲ兩舷ニ掲クル代リニ一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用ヒタル燈籠一個ヲ手近カニ備ヘ置キ前項ニ從テ之ヲ使用スルヲ得

水先船其水先區ニ於テ營業ヲ爲サ、ルトキハ其積量ニ應シテ他船ト同一ノ燈ヲ掲クヘシ

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 第四條、第五條、第六條、第七條、第八條、委員修正ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數 過半數デゴザリマス……第九條、第十條、第

十一條、第十二條、第十三條、第十四條マデヲ問題ト致シマス、

第九條 凡ソ漁船其業ニ從事スルトキハ本條「各項」ノ規定ニ據ルヘシ但シ航行中ノモノ又ハ本條ニ規定ナキモノハ其積量ニ應シテ他船ト同一ノ燈ヲ掲クヘシ

一 流「刺」網ヲ用井テ漁業ニ從事スル船ハ最モ見得易キ所ニ於テ二個ノ白燈ヲ龍骨線上前後ニ五尺乃至十尺ヲ隔テ其前燈ヲ後燈ヨリモ六尺乃至十尺下方ニ掲クヘシ此燈ハ周回少クモ三海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

二 線網(ウタセ網、帆曳網)ヲ用ヒテ漁業ニ從事スル船ハ左ノ規定ニ據ルヘシ

甲 汽船ハ第二條「第一號」項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ三色ノ燈籠一個ヲ掲ケ尙ホ其下方六尺乃至十二尺ノ所ニ白燈一個ヲ増掲スヘシ此三色燈ハ船ノ正首ヨリ左右各二點迄ハ白色其レヨリ正横後ノ二點迄ハ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及ホシ又増掲ノ白燈ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ周回ヲ照スヘキモノタルヲ要ス

乙 總積量七噸以上ノ帆船ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ周回ヲ照スヘキ白燈一個ヲ掲クル外尙ホ少クモ三十秒時間發火スヘキ紅光焰管ヲ備ヘ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ發スヘシ

本號「項」乙ニ記載シタル諸船地中海ニアリテハ紅光焰管ノ代リニ他ノ閃火ヲ用フルヲ得

本號「項」甲乙ニ記載シタル「ス」ル諸燈ハ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルモノ要ス

丙 總積量七噸未満ノ帆船ハ必シモ本條「第二號」項「乙」ニ記載シタル「ス」ル白燈ヲ掲クルヲ要セス然レトモ之ヲ掲ケサル場合ニ於テハ白色亮明ノ光ヲ發スル燈籠一個ヲ手近カニ備ヘ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其燈ヲ最モ見得易キ所ニ表示シ且ツ本條「第二號」項「乙」ニ規定シタル紅光焰管ヲ發シ或ハ其焰管ノ代リニ他ノ閃火ヲ發スヘシ

三 延縄曳網「釣」ヲ用ヒテ漁業ニ從事スル船碇泊若クハ停留セサルトキハ流「刺」網ヲ用ヒタル漁船ト同一ノ燈ヲ掲クヘシ

四 漁船ハ本條ニ規定シタル燈火ヲ表示スルノ外何時ニテモ閃火ヲ發

ト云フノハ所ニ依リマシテ名前ハ一樣ニ參リマセス故ニ已ムヲ得ズウタセ
網、帆曳網ト云フ様ニ幾ツモ名ガ擧ゲテアリマスガ其實一ツデアリマス、即チ
所ニ依リテ名ガ變テ居リマスカラス様ナ註ガ出來テ居ルト考ヘマス、併シ斯
様ナ文字ガ法律上ニ這入ッテ居リマシテハ又線網ト云フ字ニ註ガ這入ッテ居ル
ト誠ニ紛ラハシクテ不都合デアルカラ削ラレテモ仕方ガナイト思ヒマス、併
シ線網ト云フモノガ原語ノミラウねつとニ能ク似テ居ルガウタセ網ト云フ
モノモ其中ニ這入ッテ居ルト云フ譯ニハ往キ兼テル様ニナリマスカラウタセ
網ト云フ文字ニシタラ宜カラウト思フ、併ナガラウタセ網ト云フ言葉モ一地
方ニ行ハレテ居ル言葉デアリマスカラ夫レヲ以テ全國中ヲ推スト云フ譯ニハ
往カス、右申シマス通り是レハ一ツノ翻譯字デアリマスガ一ツノ言葉ガ丁度
日本ノモノニ能ク當ルト云フコトニナリマス餘程ムヅカシカラウト思ヒマ
ス、又其次ニアリマス所ノ延繩曳網ト云フ文字ヲ削リ繩釣ト文字ニナリマシ
テゴザリマスガ此原語ハらゐん、ふゐつしんぐト云フコトデアリマス、其らゐ
ん、ふゐつしんぐト云フ言葉ハドウモ日本ノ延繩ト書イタモノニハドウモシッ
カリ適セズ曳網ト書イテアルニモシッカリ適當セズ兩方ヲ含ンデ居ルカラ詰
マリらゐん、ふゐつしんぐト云フ言葉ハ三ツノ名ヲ含ンデ反譯シテ居ルト考ヘ
マス、夫レデドウモ二ツノ文字ガ一ツニナッテハ不都合デアルト云フノデ繩釣
ノ文字ニ修正サレタコトト思ヒマス、夫レナラバ繩釣ト云フ言葉ガ何處ニ行
ッテモ能ク分ルカト云ヒマスレバ是レハ意義ヲ以テ翻譯シタ譯デ必ズ繩釣ト
云フ字デ延繩曳網ト解釋スルヤ否ヤト云フニ夫レハ人々ノ解釋ニ依リテ一樣
ニハ行キマスマイト思ヒマス、夫レデ本員ガ憂ヒマス所ハ唯今申シマス通り
之ヲ處理スル者ノ其國ノ方言ニ依リテ此法律ノ解釋ガ區々ニナリマシタナラ
バ一地方ニ於キマス此船燈ヲ掲ゲンデモ宜イモノモ悉ク掲ゲンバナラヌト
云フコトニナリマセウ、又一地方ニ於キマス必ズ掲ゲンバナラヌト云フモ
ノガ此文字ノタメニ掲ゲンデ居ルモノモアル、此掲ゲンバナラヌモノヲ掲ゲ
ズ掲ゲンデモ宜イモノガ掲ゲンデ居ルモノモアル、此掲ゲンバナラヌモノヲ掲ゲ
都テ之ニ類似ノモノハ悉ク掲ゲンデモ宜イモノモアル、此掲ゲンバナラヌモノ
程進ムニ從ヒマシテ類似ノモノハ悉ク船燈ヲ掲ゲル様ニナリマスレバ夫
レコソ進ムニ違ヒアリマセウ、事業家ノタメヲ考フレバ何分ニモ悉ク
航海者ガ船燈ヲ持ッテ歩キ行クコトハ困難デアリマシテ夫レガタメニ幾分か
ノ損害ヲ蒙ルコトニナリマスカラシテドウカ其様ナ御意見デ以テ掲ゲンデモ
宜イモノハ必ズ掲ゲンデモ宜イコトニ致シテ餘程此法文等ノ修正ヲ加ヘテバ
イケマスマイト思ヒマス、夫レ故ニ修正モ致サウト云フ考モアリマスケレド
モ此中ノ第一ニアリマス所ノ流網ト云フ文字ニナリマスレバ成程刺網ヨリ流
網ノ方ガ宜イカラ刺網ヲ流網ノ方ニ修正シタ方ガ宜カラウト主張スルコトハ

出來マセスガ、線網ト云フノハ區々ニ解釋シテ居ルコトハ甚ダ法文上面白カ
ラスト思ヒマス、斯様ナコトハ法律上ニ現ハハマスコトハ面白カラヌコトデ
アリマスガ、是レハドウモ十分ニ主張スル譯ニハ往キマセウ、又らゐん、ふ
ゐつしんぐデ延繩曳網ノ二ツニ翻譯シテ一ツニナルコトガ二ツニ入レタト云
フノハ面白カラヌコトデアル、然ルニ審查委員ノ修正致サレマシタ所ノ流網
ト云フ字ハ日本ニハナイケレドモ是レハ翻譯字ダ、其他刺網ト是ニ書イテア
ルケレドモ是レハ元ト翻譯字デ刺網ニセヨ流網ニセヨ是レハ斯ウ云フコ
トニ譯シタノデアルカラサウ心得レバ宜イト心得サセテ置キマスレバ此法文
ガマゴツカンデ宜シイ、ドウシテモ夫レヲスルニハ省令ト云フモノヲ出シテ
區別ヲ立テ指示サス以上ハ此法文上デハ何分ニモ即席ニ承知スルコトハ出來
マセスカラシテ寧ロ修正ノ動議ヲ出シマスヨリハ主務省ニ於テ極親切ナル省
令ヲ布カレムコトヲ希望致シマスカラ是非其サウ云フ様ニナリタウゴザリマ
ス、主務省ニ於カレマシテハ如何ナル御意見デゴザリマスカ時宜ニ依リマシ
テハ修正案ヲ提出シヤウト考ヘマス、

○政府委員(河津祐之君) 此網ノ名ニ付キマシテハ唯今田中君ガ言ハレマ
シタ如クドウモ其譯字ヲ當テマシタケレドモ適當ナル譯字ガナイノデゴザリ
マス、夫レ故ニ已ムヲ得ズ第一項ヲ流網トシ第二項ヲ線網トシマシテ夫レ
ニ註ヲ付ケマシテ第三ノ項らゐん、ふゐつしんぐト云フ字ノ翻譯ハ分ケテアリ
マス、夫レ故ニ此らゐん、ふゐつしんぐノ字ヲ二ツニ分ケテ延繩曳網ト云フモ
ノヲ以テ先ヅ大抵航海ノ妨ヲナス様ナ網類ヲ網羅シタト云フ考ヘデアアルノデ
ゴザリマス、併ナガラ唯今段々斯ウ云フコトニハ御委シイ所ノ田中君ノ御説
モアリマシタシ又之ヲ修正シタル村田君モ水産ノコトハ委シイ方デアリマス
ガ何レニモセヨ適當ナル譯字ガナイ故ニ色々ノ議論ガ出ル譯デゴザリマス、
故ニ唯今田中君ノ言ハレル如ク主務省ニ於テ是レハ斯ウ云フモノヲ云フノデ
アルト云フ達ヲ出シマスノハ仔細ノナイコトデ、併ナガラ其達ヲ出シマシテ
モ是レハ法律ノ解釋ニ適當デナカッタキハ矢張り裁判官ハ其裁判ヲシナイ
デゴザイマセウカラ效ノナイ様ナモノデゴザイマスガ船頭ガ因マラナイタメ
ノ達ヲ出スコトハ仔細ノナイコト存ジマス、

○田中芳男君 唯今政府委員ノ御答ガゴザリマシテ此様ナ迷ヒサウナ所ハ
丁寧ナル法令デモ出マス様ニナリマスレバ第一項第二項第三項ノ質問ニ於キ
マシテ修正案ハモウ出シマセウ、是レデ先ヅドウカカ分ルモノト致シマ
ス、然ルキトニハ三ハ此儘置キマスルコトニ致シマスルコト少シ法文ハ面白ク
ナイコトガゴザイマスカラシテ此法文式ケ直シテ置キマス方ガ宜カラウト思
ヒマスガ是レモ元々ノ解釋ノコトダカラ幾ラ練ッテモ法文ノ儘デハ矢張
リ不都合ナラ強テ修正ヲ加ヘルニモ及ビマセウカ知リマセウガ、先ヅ繩釣ト

云フ言葉ニナリマス、トツノ物名ト解釋セテバナラヌカラシテ矢張り是レハ勸詞ト見ル方ガ宜シカラウ、サウシマスルト第三ノ所デ繩釣ノ文字ノ下ニ「ヲ用ヒテ」ト云フ四字ヲ省クト餘程法文ガ見宜クナリマス、次ニ七ノ所モ矢張り同ジク繩釣ヲ用ヒテ「ヲ用ヒテ」ト云フ四字ヲ省クト餘程法文ガ穩カニナリマス、サウ云フ様ニナリマス、第三デゴザリマス、ト云フ字ヲ一字入レテ繩釣ノ業ニ從事スルト斯ウナリマス、第八ニナルト繩釣ノ業ニ從事スルト斯ウ云フ様ナ法文ニナリマス、此中「ヲ用ヒテ」ト云フ文字ト其次ニ「ヲ用ヒテ」ト云フ文字ト、八ニハ「ヲ用ヒテ」ト云フ文字ト此三箇所ノ四字ヅ、省キマスルト、モウ一ツ、七ノ場合ニ省キマス、ト云フ文字ト「ノ」一字ヲ加ヘマスルト云フコトニナリマス、レハ法文ハ餘程穩カニナリマス、ガ之ヲドウモ省令デ此儘直スト云フコトニハ參リマセヌカラシテ唯今申ス「ヲ用ヒテ」ト云フ文字ヲ省キマスルト同意ノ方ガアリマシテ是レニ成リマス、レハ法文ハ餘程穩カニナリマス、去リトテ直ランデモ船頭ノ生命ニ關スル様ナ大變ナ害ハアリマセヌケレドモ願ハクハ是レ丈ケ直シタ方ガ法文ガ穩カニナリマス、誠ニ贊成者ガアルカナイカ知リマセヌガ議場ニ贊成ヲ求メ首尾能ク往ケバ修正アラムコトヲ希望シマス、

○村田保君 田中君ニ質問致シタイ、第九條ノ一ニ刺網ヲ用ヒテ漁業ニ從事スルトアリマス、第二ニ繰網ヲ用ヒテ漁業ニ從事スルトアリマス、是レハ田中君ハ三バカリヲ繩釣ヲ用ヒテト云フ「ヲ用ヒテ」ト云フ字ヲ削ッテ繩釣漁業ニ從事スルト云フコトニナリマス、レハ前ノ方ハ如何デアリマス、カ、是レハ矢張り此儘置キ刺網漁業ニ從事スルトナリマセヌカ、之ヲ一應伺ヒマス、

○田中芳男君 唯今本員ノ述ベマシタ所ハ第三、第七、第八ノ此三ノ所ノ法文丈ケヲ述ベマシタ、若シ此三ツヲ直ス以上ハ一二モ同ジクシナケレバナラヌ御意見デアリマス、レハ夫レモ修正シテモ宜シイガ、併シ一二ハ強テ修正セズトモ大ニ此惑ヲ起ス様ナコトハアリマス、三ト七八トハ甚ダ了解ニ苦シムカラ已ムヲ得ズ修正シテ宜カラウト云フ考デゴザリマス、

○男爵小松行正君 田中君ノ修正説ニ贊成、

○細川潤次郎君 贊成致シマス、

○子爵日野西光善君 田中君ニ贊成、

○男爵金子有卿君 田中君ニ贊成、

○子爵京極高典君 田中君ニ贊成、

○子爵梅小路定行君 贊成、

○男爵本多副元君 田中君ニ贊成、

○子爵秋田映季君 田中君ニ贊成、

○侯爵黒田長成君 贊成、

○山川浩君 田中君ニ贊成、

○南郷茂光君 贊成、

○澤簡德君 贊成ヲ致シマス、

○櫻井伊兵衛君 田中君ニ贊成、

○男爵榎村正直君 贊成、

○男爵楳村素彦君 田中君ニ贊成、

○重野安釋君 田中君ニ贊成、

○子爵舟橋遂賢君 贊成ヲ致シマス、

○伯爵大原重朝君 贊成、

○子爵正親町實正君 贊成、

○子爵久世通章君 贊成、

○子爵會我祐準君 贊成、

○子爵久留島通簡君 贊成、

○子爵長谷信篤君 贊成、

○子爵一柳末德君 贊成、

○伯爵冷泉爲紀君 贊成、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 田中君ノ動議ハ定規ノ贊成者ガゴザイマシタニ依ッテ問題トナリマシタ、直ニ決ヲ採リマス、第九條ノ三、一「繩釣漁業ニ從事スルト」ト直リマス、七ガ「繩釣ノ業ニ從事スルト」、八ガ「繩釣漁業ニ從事スルト」ト此三箇條ノ修正デゴザイマス、田中君ノ修正説ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、依ッテ唯今修正ノ如クニ決シマシタ、次ニ第十條、第十一條、第十二條、第十三條、第十四條、委員ノ修正ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、次ニ霧中信號第十五條、霧中速力第十六條、第十七條、第十八條、第十九條、第二十條、第二十一條、第二十二條、第二十三條、第二十四條、第二十五條、第二十六條、第二十七條ヲ問題ト致シマス、

霧中信號

第十五條 航行中ノ船舶ニ關シ本條ニ規定シタル信號ヲ爲スニハ左ノ信號器ヲ用フヘシ

汽船ハ汽笛若クハ汽角

帆船及「ヒ」他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ霧中號角

本條中長聲トハ四秒乃至六秒時間ノ發聲ヲ謂フ

汽船ハ汽力其他之ニ代用スヘキモノニ因リ發聲スル適當ノ汽笛若クハ汽

角ヲ音響ノ妨害物ナキ所ニ裝置シ且ツ號鐘及「ヒ」機關ノ作用ニ因リ發聲

スル適當ノ霧中號角ヲ備フヘシ又總積量二十噸以上ノ帆船ハ汽船同様ノ

號鐘及「ヒ」霧中號角ヲ備フヘシ

霧中降雪其他暴雨中ハ晝夜ノ別ナク左ノ各號「項」ニ規定シタル信號ヲ爲

スヘシ

一 汽船航行中ハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ一發スヘシ

二 汽船航行中運轉ヲ止メテ速力ヲ有タサルトキハ二分時ヨリ多カラ

サル間隙ヲ以テ長聲ヲ二發スヘシ但シ其二發ノ間隙ハ大約一秒時

タルヲ要ス

三 帆船航行中ハ一時分ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ右舷開ナレハ一聲

ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ正横後ニ風ヲ受ケタルトキ

ハ三聲ヲ連發スヘシ

四 船舶碇泊中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ大約五秒時間劇シ

ク號鐘ヲ鳴スヘシ

五 船舶普通ノ碇泊場外又ハ航行中ノ船舶ニ障礙ヲ及ホス虞アル場所

ニ碇泊シタルトキハ汽船ナレハ汽笛若クハ汽角ヲ用ヒ二分時ヨリ

多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ二發シ直ニ號鐘ヲ鳴ラスヘシ又帆船

ナレハ霧中號角ヲ用ヒ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ二聲ヲ發

シ直ニ號鐘ヲ鳴ラスヘシ

六 他船ヲ引キテ運航スル船舶ハ本條「第一號」項及「第二號」

「項」ニ規定シタル信號ノ代リニ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ

三聲ヲ連發シ即チ長聲ヲ一發シタル後直ニ短聲ヲ二發スヘシ又他

船ニ引カレテ運航スル船舶モ此信號ヲ爲スハ妨ナシト雖モ他ノ信

號ヲ爲スヘカラス

七 航路ニ餘地アリテ他船ノ航過スルニ障礙ナキコトヲ他船ニ通知セ

ントスル汽船ハ短長短ノ三聲ヲ連發スルヲ得但シ其三聲ノ間隙ハ

大約一秒時タルヲ要ス

八 海底電信線ノ布設若クハ引揚ニ從事スル船舶近寄り來ル他船ノ霧

中信號ヲ聞キタルトキハ三長聲ヲ連發シテ之レニ應スヘシ

九 船舶航行中運轉自由ヲ得シテ近寄り來ル他船ノ航路ヲ避ケ能ハ

ノ霧中信號ヲ聞キタルトキハ四短聲ヲ連發シテ之ニ應スヘシ

總積量二十噸未滿ノ帆船ハ必スシモ本條「前數項」ニ規定シタル信號ヲ

爲スヲ要セス然レトモ其信號ヲ爲サルトキハ一分時ヨリ多カラサル

間隙ヲ以テ適宜他ノ音響信號ヲ爲スヘシ

霧中速力

第十六條 霧中降雪其他暴雨中ハ各船現時ノ狀況ニ注意シ適度ノ速力ヲ以

テ進行スヘシ

汽船其正横ヨリ前面ニ方リテ他船ノ霧中信號ヲ聞キ其所在ヲ定メ得サル

トキハ成ルヘク機關ノ運轉ヲ止メ至ク衝突ノ虞ナキニ至ル迄其運航ニ注

意スヘシ

航方

衝突ノ危險ハ其現況ニヨリ我船ニ近寄り來ル他船ノ方位ヲ看守シテ之ヲ

豫知スルヲ得若シ其方位儘ニ變更スルヲ認メサルトキハ危險アルモノト

知ルヘシ

第十七條 二艘ノ帆船互ニ近寄りテ衝突ノ虞アルトキハ其一艘ヨリ左ノ如

ク他船ノ航路ヲ避クヘシ

一 一杯ニ開カサル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

二 左舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避ク

ヘシ

三 一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷同シカラサルトキハ左舷ニ

風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

四 一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷同シキトキハ風上ノ船ヨリ

風下ノ船ノ航路ヲ避クヘシ

五 船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十八條 二艘ノ汽船正シク真向又ハ幾ント真向ニ行逢フテ衝突ノ虞アル

トキハ兩船トモ鐵路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ左舷ノ方ニ替ハシ「ヲ」行ク

「過ス」ヘシ

本條ハ兩船正シク真向又ハ幾ント真向ニ行逢フテ衝突ノ虞アルトキニ限

リ適用スヘシ兩船各其鐵路ヲ保チテ互ニ航過シ得ル「替」行ク「ト」キニハ

適用スヘカラス

本條ヲ「適」用スヘキ場合ハ兩船共ニ正シク真向又ハ幾ント真向ニ行逢

ヒタルトキ即チ晝間ニアリテハ我船ノ檣ト他船ノ檣ト一直線又ハ幾ント

一直線ニ見ユルトキ夜間ニアリテハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ見ルトキニ限ル

ヘシ

船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スルトキ又ハ我船ノ前面ニ綠燈ヲ見スシテ紅燈ヲ見或ハ紅燈ヲ見スシテ綠燈ヲ見ルトキ又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ルトキハ適用スヘカラス

第十九條 二艘ノ汽船互ニ航路ヲ横切リ衝突ノ虞アルトキハ他船ヲ右舷ニ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十條 帆船ト汽船ト互ニ近寄り衝突ノ虞アルトキハ汽船ヨリ帆船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十一條 本法航方ニ據リ二船ノ内一船ヨリ地船ノ航路ヲ避クルトキハ他船ニ於テ其航路及ビ速力ヲ保ツヘシ

第二十二條 本法航方ニ據リ他船ノ航路ヲ避クヘキ船ハ成ルヘク他船ノ前面ヲ横切ルヘカラス

第二十三條 本法航方ニ據リ他船ノ航路ヲ避クヘキ汽船ハ他船ニ近寄りタルトキ時宜ニ應シテ速力ヲ緩メ若クハ運轉ヲ止メ又ハ後退スヘシ

第二十四條 總テ他船ヲ追越ス船ハ本法航方中前數條ノ規定ニ拘ハラス他船ノ航路ヲ避クヘシ

總テ他船ノ兩舷正横後ノ二點以外即チ夜間ニアリテ舷燈ヲ見難キ位置ヨリ其船ヲ追越サントスル船舶ハ之ヲ追越船トナシ其後兩船ノ位置ニ變更ヲ來スモ其追越船ヲ以テ本法ノ航路横切船トナサス故ニ其船ハ他船ヲ全ク追越シ了ル迄他船ノ航路ヲ避クヘキモノトス

晝間他船ヲ追越サントスル船舶ニシテ前項ニ記載シタル方位ノ内外ヲ辨知シ難キモノハ本船ヲ追越船ト看做シテ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十五條 汽船狹隘ノ水道ニ於テ無難ニ通航シ得ルトキハ其中流ノ右側即チ本船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ

第二十六條 航行中ノ帆船ハ網或ハ延繩曳網ヲ用ヒテ漁業ニ從事スル帆船ノ航路ヲ避クヘシ但シ漁船ト雖モ猥リニ他船ノ通航スヘキ線路ヲ妨クヘカラス

第二十七條 本法ヲ履行スルニ當リ運航及「ヒ」衝突ニ關シ百般ノ危險ニ注意スルハ勿論若シ危險切迫シテ本法ヲ履行シ能ハサル特殊ノ場合ニ於テハ其危險ヲ避クル爲メ臨機ノ處置ヲ爲スコトニ注意スヘシ

○子爵内藤政共君 第二十六條ノ所ニ至リマシテ矢張り「繩釣ヲ用ヒテ」ト云フ語ガゴザイマスデ……是レハ大キニ誤リマシタ

○田中芳男君 二十六條ニ唯今ノ修正致マシタト同ジ様ナ法文ガゴザイマスカラ前ノガ修正通りニナリマシテ見マスルト是レモ矢張り同様ニ致サナケレバナラヌカト考ヘル……イヤ甚ダ間違ヒマシタカラ引キマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 他ニ御發言ガゴザリマセテ決ヲ採リマス、第十五條以下第二十七條マデ委員ノ修正ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、次ニ第二十八條第二十九條、第三十條、第三十一條、第三十二條、第三十三條、第三十四條ヲ問題ト致シマス、

航路信號 第二十八條 本條中短聲トハ大約一秒時間ノ發聲ヲ謂フ

航行中ノ汽船他船ニ近寄り航路ヲ變セントスルトキハ汽笛若クハ汽角ヲ以テ左ノ信號ヲ爲シ他船ニ我船ノ航路ヲ通知スヘシ

短聲一發 我船航路ヲ右舷ニ取ル

短聲二發 我船航路ヲ左舷ニ取ル

短聲三發 我船全速力ニテ後退ス

解怠ノ責 第二十九條 本法ハ點燈、信號又ハ見張ノ怠リ其他海員ノ常務又ハ臨機ノ處置ニ必要ナル注意ノ怠リヨリ生シタル結果ニ付船主、船長海員ヲシテ其責ヲ免レシメサルモノトス

特例 第三十條 本法ハ地方長官ニ於テ規定シタル港、川其他内海ノ運航ニ關スル特別規則ノ施行ヲ妨ケス

難船信號 第三十一條 危險ニ罹リテ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スル船舶ハ左ノ信號ヲ同時又ハ別々ニ使用スヘシ

晝間信號 一 大約一分時ノ間隙ヲ以テ一砲發ヲ爲ス

二 萬國船舶信號書ニ掲載スルN.C.ノ難船信號ヲ表示ス

三 方形旗ノ上又ハ下ニ球若クハ之ニ類似ノモノヲ掲クル遠隔信號ヲ表示ス

四 夜間信號ノ部ニ規定シタル榴彈或ハ火箭ヲ打揚ク

五 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

夜間信號 一 大約一分時ノ間隙ヲ以テ一砲發ヲ爲ス

二 船上ノ發煙(タル桶油樽等)ヲ點燃スルヲ類

三 空中ニ高響及「ヒ」星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭ヲ一次一發ツ、度々打揚ク

四 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

附則

第三十二條 本法中船舶積量噸數ニ關シ日本形船ハ十石ヲ以テ一噸ニ通算ス

第三十三條 本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

第三十四條 明治十三年^七第三十五號^八布告海上衝突豫防規則同十四年^五第三十三號布告同規則追加同十八年^八第二十七號布告同規則改正追加

ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 是レハ一ト所直シテゴザイマスガ送り假名ノ遣ヒ方式ケノコトニテ修正トシテ決ヲ探ルコトデアリマスマイト存ジマスカラ原案ニ付イテ決ヲ採リマス、第二十八條以下第三十四條マデ原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、

○子爵平松時厚君 本案ハ澤山條モゴザイマスガ修正ハ唯今ノ二三位デアリマスカラ是レハ議事日程ヲ變更シテ速ニ三讀會ヲ開カレムコトヲ願ヒマス、

○林宗右衛門君 賛成ヲ致シマス、

○櫻井伊兵衛君 賛成、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 平松子爵ヨリ三讀會ヲ議事日程ヲ變更シテ直ニ開クト云フ動議ガゴザイマスカラ決ヲ採リマス、平松子爵ノ動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、依ッテ直ニ議事日程ヲ變更致シマシテ第二讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省客ヲ致シマス、即チ第二讀會ノ決議ガ原案ニナッテ居リマス、原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、依ッテ此法案ハ可決セラレマシテゴザイマス、次ニ出版法案衆議院提出第一讀會ニ移リマス、是レハ條數モゴザイマスニ依ッテ通牒文丈ケヲ朗讀致サセマス、

〔木内書記官朗讀〕

一 出版法案

右憲法第三十八條ニ依リ貴院ニ提出候也

明治二十五年五月二十八日

衆議院書記官長 水 野 遵
衆議院議長 星 亨

貴族院議長侯爵蜂須賀茂韶殿

〔左ノ法案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ此ニ載録ス〕

出版法

第一條 凡ソ機械舍密其他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖書ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若クハ圖書ヲ作爲スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

第二條 新聞紙又ハ時々ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖書ノ出版ハ總テ此法律ニ依ルヘシ但專ラ學術技藝統計廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ハ此法律ニ依リ出版スルコトヲ得

第三條 文書圖書ヲ出版スルトキハ發行以前ニ管轄廳(東京府)ヲ經テ製本

第二部ヲ添ヘ内務省ニ届出ヘシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版スルトキハ其官廳ヨリ發行前製本二部ヲ内務省ニ送付スヘシ

第五條 出版届ハ著作者又ハ其相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出スヘシ但非賣品ハ著作者又ハ發行者ノミニテ届出ルコトヲ得

著作者又ハ其相續者ヲ知ル可カラサルトキハ其由ヲ記シ發行者ヨリ差出スヘシ

翻刻又ハ外國人ノ著作ニ係ル文書圖書及ヒ他人ノ作爲ニ係ル書畫ノ出版届ハ其由ヲ記シ發行者ヨリ差出スヘシ

學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ハ其學校會社協會等ヲ代表スル者發行者ト連印シテ之ヲ届出ヘシ

第六條 文書圖書ノ發行ハ文書圖書ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但著作又ハ其相續者ハ此限ニアラス

文書圖書ノ發行者ハ其氏名住所及發行ノ年月日ヲ其出版物ノ末尾ニ記載スヘシ

第七條 印刷者文書圖書ヲ印刷スルトキハ印刷ノ年月日及其氏名住所ヲ末尾ニ記載シ住所ト印刷所ト同シカラザルトキハ印刷所ヲモ記載スヘシ印刷所若シ數人ノ共有ニ係ルトキハ營業上其印刷所ヲ代表スル者ヲ以テ印刷者トス

前二項ノ印刷所ニシテ若シ營業上慣行ノ名稱アルトキハ其名稱ヲモ記載スヘシ

第八條 書簡通信報告社則藝則引札諸藝ノ番付諸種ノ用紙證書ノ類ハ第三條第六條第七條ニ據ルヲ要セス

前項ノ文書圖書ヲ印刷シテ之ヲ頒布シ第十五條第十六條第十八條第十九條第二十條第二十五條第二十六條ニ觸ル、者ハ此法律ニ依テ處分ス

第九條 文書圖書ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其都度第三條ノ手續ヲナスヘシ但雜誌類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ經テ其手續ヲ省畧スルコトヲ得

此法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ十二箇月間一回ヲモ發行セサルトキハ廢刊シタルモノト看做スヘシ

第十條 一タヒ出版届ヲナシタル文書圖書ノ再版ハ出版届ヲ要セスト雖モ若シ改正増減シ又ハ註解附録繪圖等ヲ加ヘタルトキハ仍ホ第三條ニ依ルヘシ

第十一條 演說若クハ講義ノ筆記ハ演說者若クハ講義者ヲ以テ著作トス但筆記者ニ於テ演說者若クハ講義者ノ承諾ヲ得テ自ラ之ヲ出版スルトキハ筆記者ヲ著作ト看做スヘシ此場合ニ於テ記載ノ事項第十五條第十六條第十八條第十九條第二十條第二十五條第二十六條ニ觸ル、トキハ演說者若クハ講義者、筆記者ト同ク其罪ヲ論ス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演說講義ヲ新聞紙若クハ雜誌ノ通信者ニ於テ筆記シ其新聞紙若クハ雜誌ニ記載シタルモノ及ヒ總テ演說者講義者ノ承諾ヲ經シテ其筆記ヲ出版シタル者ニ關シテハ演說者若クハ講義者ハ著作ノ責ニ任セス

公開ノ席ニ於テ爲シタル講義若クハ演說ノ外ハ其講義者又ハ演說者ノ許諾ヲ經ルニ非レハ他人ニ於テ其筆記ヲ出版スルコトヲ得ス但本項ニ違フ者ハ版權法ニ據リ其責ニ任セシム

第十二條 他人ノ著作二種以上若クハ他人ノ演說講義ノ筆記二種以上ヲ編纂シテ一部ノ書トナストキハ編纂者ヲ著作ト看做スヘシ

前條第一項ノ末段及第二項第三項ハ本條ニ適用スヘシ

第十三條 翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作ト看做スヘシ

第十四條 學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ハ其出版届ヲナス者ヲ以テ著作ト看做スヘシ

第十五條 法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ出版スルコトヲ得ス

外交軍事ニ關シ公ニセサル官ノ文書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニアラサレハ詳略ニ拘ラス之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十六條 安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルト認ムル文書圖書ヲ出版

シタルトキハ内務大臣ニ於テ其發賣頒布ヲ禁シ其刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得

第十七條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖書ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其文書圖書ノ內國ニ於ル發賣頒布ヲ禁シ其印本ヲ差押フルコトヲ得

第十八條 軍事、機密ニ關スル文書圖書ハ當該官廳ノ許可ヲ受クルニアラサレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十九條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス

傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ事項ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十條 罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ出版スルコトヲ得ス

刑律ニ觸レタル者若クハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十一條 第三條ノ届出ヲナサシテ文書圖書ヲ出版シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 發行者自己ノ氏名住所又ハ印刷者ノ氏名住所又ハ印刷ノ年月日又ハ發行ノ年月日ヲ記載セサル文書圖書ヲ發行シタルトキハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ其之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者亦同シ

第二十三條 印刷者自己ノ氏名住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其印刷スル所ノ文書圖書ニ記載セス若クハ記載スト雖モ實ヲ以テセサルモノハ罰前條ニ同シ

住所ト印刷所ト同シカラサルトキ及印刷所ニシテ營業上慣行ノ社名アルトキ印刷所及社名ヲ記載セサル者亦前項ニ同シ

第二十四條 第六條第一項ヲ犯ス者ハ罰前條ニ同シ

第二十五條 政體ヲ變壞シ國憲ヲ紊亂セントスル文書ヲ出版シタルトキハ著作若クハ一年以上以下ノ輕禁錮又ハ參拾圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

圖畫ニシテ其目的前項ニ同キ者ハ罰前項ニ同シ

第二十六條 風俗ヲ壞亂スル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作若クハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第十五條第十八條第十九條第二十條ニ觸ル、文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作若クハ一年以上以下ノ輕禁錮又ハ參拾圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條第十七條ニ依リ發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖書ヲ發賣頒布シタル者罰前項ニ同シ但其未タ發賣頒布セサル文書圖書ハ之ヲ沒收ス

第二十八條 第二十五條第二十六條第二十七條第一項ノ場合ニ於テ發行者

印刷者ニ於テ情ヲ知ラサルコトヲ證明シ得サル者ハ其犯ヲ以テ論ハ

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ

檢察官ニ於テ假ニ之ヲ差押フルコトヲ得差押フル所ノ刻版印本ハ裁判ノ

確定ヲ待テ無罪ナレハ本主ニ還付シ有罪ナレハ沒收ス

第三十條 前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其差押フヘキ部分ト

他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトアルヘシ

第三十一條 文書圖書ヲ出版シ因テ誹毀若クハ侮辱ノ訴ヲ受ケタル場合ニ

於テ裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス専ラ公益ノ爲ニスルモノ

ト認ムル時ハ被告人ニ事實ノ證明ヲ許スコトヲ得若シ證明ノ確立ヲ得タ

ルトキハ其罪ヲ免ス損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキ亦同シ

第三十二條 此法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ

例ヲ用井ス

第三十三條 此法律ニ關スル公訴ノ時效ハ一年トシ犯罪ト認メラレタル文

書圖書ト最後ニ發賣頒布シタル時ヨリ起算ス發賣頒布セサルモノハ最後

ニ印刷シタル時ヨリ起算ス

第三十四條 文書圖書又ハ物象ヲ寫眞ト爲シ因テ此法律第十五條第十六條

第十八條第十九條第二十五條及第二十六條ニ觸ル、トキハ其寫

眞ヲ普通ノ文書圖書ト見做シ此法律ニ依リ之ヲ處分ス

第三十五條 此法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ第二條ノ範圍外ニ涉ル事項

ヲ記載シ因テ此法律又ハ新聞紙法ニ觸ル、モノハ此法律又ハ新聞紙法ニ

依リ重ニ從テ處分ス

第三十六條 此法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ其記載ノ事項第二條ノ範圍

外ニ涉ル時ハ內務大臣ハ此法律ニ依ルコトヲ差止ムルコトヲ得此場合ニ

於テハ一箇年ヲ經ルニアラサレハ更ニ此法律ニ依ルコトヲ得ス

第三十七條 文書圖書ヲ印刷スルトキハ直チニ發賣頒布セスト雖其目的發

賣頒布ニ在ル者ハ總テ此法律ニ依ル

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 本案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉ニ移

リマス、

○子爵松平信正君 本案ノ特別委員ノ選舉ハ議長ニ委託セラレムコトヲ希

望致シマス、

○伯爵小笠原忠忱君 贊成、

○子爵岡部長職君 本案特別委員ハ議長ニ委託シマスコトヲ贊成シマス、

○下鄉傳平君 贊成、

○伯爵大原重朝君 贊成、

○伯爵冷泉爲紀君 贊成、

○箕作麟祥君 本員ハ出版法案特別委員ハ以前ノ新聞紙法案ノ特別委員ニ

付託相成ルコトヲ冀望致シマス、是レハ即チ貴族院規則第四十八條ニ申ス「議

院ハ特別委員ニ付託シタル事件ニ連繫スル他ノ事件ヲ以テ併セテ之ニ付託ス

ルコトヲ得」トアリマス、是レハ申スマデモナク新聞紙ト出版ト申スト大分

文字ハ違ッテ居リマスガ即チ歐羅巴ニ申スべし申スコトヲ云フノデアリ

マス、我邦ニハ二ツニ區別ガ付テ居リマスガ詰マリ同様ノ原則デ參ルコトデ

アラウト思ヒマス、矢張り相連繫シテ居ルモノト存ジマスルデ是レハドウゾ

前ノ新聞紙法案ノ特別委員ニ付託セラレムコトヲ希望致シマス、

○男爵本多副元君 贊成、

○男爵西五辻文伸君 贊成、

○馬屋原彰君 贊成、

○子爵平松時厚君 贊成、

○小原重哉君 贊成、

○櫻井伊兵衛君 贊成、

○男爵小松行正君 箕作君ニ贊成、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 松平子爵ヨリハ議長ニ委員ノ選舉ヲ託スルト

云フ説ト、箕作君ヨリハ新聞紙法案ト同一ノ委員ニ付託スルト云フ説ガ出マ

シテ孰モ贊成ガゴザイマスニ依ッテ決ヲ採リマス、箕作君ノ動議ヲ可トスル

諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス依ッテ是レハ新聞紙法案

ト同一委員ニ付託スルコトニ相成リマス、夫レデ今一箇條申述ベルコトガゴ

ザイマス、政府ヨリ提出ニナリマシタ明治二十五年年度歲入歲出總豫算追加案

並明治二十五年年度大阪砲兵工廠特別會計歲入歲出豫算追加案、豫算外國庫ノ

負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スルノ件、是レ丈ケノ案ヲ豫算委員ニ付シマ

シテゴザイマスニ依ッテ豫算案議定細則第二條ニ豫算案審査報告ノ期限ヲ定

ムルト云フコトガゴザイマスニ依ッテ本日ノ議事日程ニ是レヨリ追加ヲ致シ

マシテ此期限ヲ定メル件丈ケヲ直ニ議シヤウト思ヒマス、之ヲ議院ニ諮ヒマ

ス、別段御異議ガナイト存ジマスルニ依ッテ即チ本日ノ議事日程ニ追加ヲ

致シマシテ豫算審査報告期限ヲ定ムルノ件ヲ是レヨリ議シマスル、

○子爵谷干城君 此度下付ニナリマシタル所ノ追加豫算案ニ於キマシテハ

左程浩濬ナルモノニハアリマセズ、又當會ノ日數ニ於キマシテモ甚ダ少ナイ

時日デゴザイマスルカラシテ成ルベク早ク致スガ宜シカラウト考ヘマスル、

依ッテ本員ハ豫算審査委員長ノ場ヲ以テマシテカラニ御相談致シタイト存ジマスルハ即チ二日ノ日數ガアレバ事ガ足りヤウカト考ヘマスルデ明後日即チ來ル四日マデ之ヲ仕上ゲル様ニ致シタラ如何ノモノデアラウカト思ヒマスルデ、御相談致シマス、

○男爵千家尊福君 唯今谷子爵ノ發議ノ様ニ決セラレムコトヲ希望致シマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 谷子爵ニチヨット承リマスガ明後日中ト云フコトデスカ、

○子爵谷干城君 左様デス、其積リデゴザイマス、

○子爵平松時厚君 谷君ノ發議ニ賛成ヲ致シマスル、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 他ニ御發議ガゴザイマセスケレバ決ヲ採リマス、谷子爵ノ申サレルノハ即チ明後四日中ニ審査ノ上報告ヲスルト云フコトデゴザイマス、谷子爵ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、依ッテ明後四日中ニ審査ノ上報告相成ルコトニ定マリマシタ、明日ハ休會ニ致シマス積リデゴザイマス、次ノ議事日程ハ尙ホ後ヨリ御報告ヲ致シマス、今日ハ散會、

午前十一時五十六分散會